

証券コード 7422
2026年2月27日
(電子提供措置の開始日2026年2月19日)

株 主 各 位

東京都文京区湯島3丁目42番6号
東邦レマック株式会社
代表取締役社長 笠 井 信 剛

第68回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第68回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイトに電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト <http://www.toho-lamac.co.jp>

電子提供措置事項は、上記のほか、東京証券取引所（東証）のウェブサイトにも掲載しておりますので、以下の東証ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）にアクセスして、銘柄名（会社名）または証券コードを入力・検索し、「基本情報」、「縦覧書類／PR情報」を選択のうえ、ご確認くださいようお願い申し上げます。インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

東証ウェブサイト <https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>

当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら電子提供措置事項に掲載している又は後記の株主総会参考書類をご検討下さいまして、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2026年3月13日（金曜日）午後5時までに到着するようにご送付下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2026年3月16日（月曜日）午前10時
2. 場 所 東京都台東区池之端1丁目4番1号
東天紅 上野店 5階飛鳥の間
3. 会議の目的事項
報告事項 第68期（2024年12月21日から
2025年12月20日まで）事業報告及び計算書類報告の件
決議事項
第1号議案 剰余金の処分の件
第2号議案 取締役8名選任の件
第3号議案 監査役1名選任の件
第4号議案 補欠監査役1名選任の件
第5号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件
第6号議案 退任監査役に対し退職慰労金贈呈の件

以 上

~~~~~  
※議決権行使書面において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。

※電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載しているウェブサイトに変更後の内容を掲載させていただきます。

※本年度より懇親会の開催はございませんので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

# 事業報告

(2024年12月21日から  
2025年12月20日まで)

## I 会社の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及びその成果

当事業年度におけるわが国経済は、インバウンド需要の継続や堅調な企業業績等を背景に、雇用・所得環境が改善傾向にあり、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、原材料・エネルギー価格の高止まりや人件費等の上昇に伴う物価の上昇が継続しており、設備投資や個人消費を下振れさせる懸念要素が存在しております。また中東地区における地政学的リスクの高まりやロシア・ウクライナ情勢の長期化、米国の通商政策による影響及び金融資本市場の変動の影響等、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

靴流通業界におきましては、円安に伴うインバウンド需要は継続しているものの、消費者物価の上昇に伴う生活防衛意識の高まりにより継続する節約志向、原材料価格や商品仕入原価の高騰等により厳しい経営環境が続いております。商品につきましては、スニーカーを中心としたスポーツ系カジュアルやアウトドア系カジュアル、手を使わなくても履くことができるハンズフリーシューズの需要が多く、これらのトレンドアイテム以外の商品にとっては厳しい状況となっております。

このような状況の中で、当社はシューズ事業において、紳士靴が前年を上回る数字を残しましたが、婦人靴及びゴム・スニーカー・その他の商品群が苦戦を強いられ、納得のいく結果を残すことはできませんでした。また稼働初年度となる不動産事業においては、営業活動に必要な基盤作りに取り組み、次年度以降への環境整備等に努めました。

その結果、当事業年度の売上高は45億47百万円（前年同期比10.9%減）と前事業年度を下回り、売上総利益につきましては売上原価を抑えることができたものの、13億13百万円（前年同期比12.3%減）と前事業年度を下回りました。営業損益につきましては、売上総利益の減少と販売費及び一般管理費の増加により、1億20百万円の営業損失となりました（前年同期は営業利益73百万円）。特にブランドシューズからの撤退に伴う商品の評価減等が影響しておりますが、この影響につきましては一過性のものと考えております。

経常損益につきましては、営業損失の影響や営業外収益の減少、暗号資産評価損等の計上による営業外費用の増加により前事業年度を下回り、99百万円の経常損失となりました（前年同期は経常利益1億32百万円）。当期純損益につきましては、特別損失として事業撤退損等を計上したものの、特別利益として計上した固定資産売却益と投資有価証券売却益の影響もあり、前事業年度を下回りましたが、当期純利益は17百万円（前年同期比85.9%減）となりました。

## 事業別売上状況

### シューズ事業

#### 婦人靴

婦人靴につきましては、お取引先様ODM商品は健闘しましたが、PB商品、ライセンスブランドが苦戦しました。用途別では、ブーツ類が34.4%、カジュアル類が1.7%と前年同期に比べ減少しました。

ブランド別では、PB商品の「MAGICAL STEPS（マジカルステップス）」、ライセンスブランドは、「a.v.v（アー・ヴェ・ヴェ）」「la farfa（ラファーファ）」が苦戦しました。販売単価は下落（前年同期比4.6%減）し、販売足数も減少（前年同期比7.7%減）により売上高は、23億56百万円（前年同期比12.0%減）となりました。

#### 紳士靴

紳士靴につきましては、お取引先様ODM商品を含め、定番商品のビジネスシューズは伸長しました。PB商品では、「LEON（レオン）」「CORE CUSHION（コアクッション）」が健闘し、ライセンスブランドでは、「Ken collection（ケンコレクション）」が苦戦しました。

紳士靴全体では、販売単価は下落（前年同期比2.8%減）しましたが、販売足数は増加（前年同期比17.3%増）しました。その結果、売上高は、11億56百万円（前年同期比14.0%増）となりました。

#### ゴム・スニーカー・その他

ゴム・スニーカー・その他の売上高は、子供靴のライセンスブランド「ALGY（アルジー）」が苦戦し、スニーカーの受注が減少したことにより、9億39百万円（前年同期比11.7%減）となりました。

この結果、シューズ事業の売上高は44億52百万円（前年同期比6.4%減）となりました。

## 不動産事業

不動産事業につきましては、賃貸物件が増えたことで賃貸売上は増加しましたが、再販売上が減少しました。その結果、売上高は94百万円（前年同期比72.8%減）となりました。

## 事業別売上高

（単位：千円）

| 区 分          | 第 67 期（前期）<br>2024年12月期 |        | 第 68 期（当期）<br>2025年12月期 |        | 前年同期比  |
|--------------|-------------------------|--------|-------------------------|--------|--------|
|              | 売 上 高                   | 構成比    | 売 上 高                   | 構成比    |        |
| シューズ事業       |                         |        |                         |        |        |
| 婦人靴          | 2,678,673               | 52.5%  | 2,356,715               | 51.8%  | 88.0%  |
| 紳士靴          | 1,014,435               | 19.9%  | 1,156,750               | 25.4%  | 114.0% |
| ゴム・スニーカー・その他 | 1,063,980               | 20.8%  | 939,359                 | 20.7%  | 88.3%  |
| 不動産事業        | 348,580                 | 6.8%   | 94,774                  | 2.1%   | 27.2%  |
| 合 計          | 5,105,669               | 100.0% | 4,547,599               | 100.0% | 89.1%  |

（注）第68期より不動産事業に係る収益及び費用等の処理方法に関する会計方針の変更を行っており、第67期については遡及処理後の数値を記載しております。

## (2) 設備投資の状況

当期中、特に記載する事項はありません。

## (3) 資金調達の状況

当期中、特に記載する事項はありません。

#### (4) 対処すべき課題

文中における将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

当社を取り巻く事業環境は、原材料価格や物流費の上昇、為替変動等の影響に加え、消費行動や市場構造の変化が進行しており、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況におきまして、当社は「創造・開拓・奉仕」の経営理念のもと、事業の持続性と将来にわたる企業価値の向上を図るべく、商品戦略及び営業戦略を中心とした経営課題への対応を進めてまいります。

##### ① 商品戦略

当社は、ライフスタイルのカジュアル化やファッションの多様化といった市場環境の変化を踏まえ、商品戦略の見直しに取り組んでおります。従来の販売数量の拡大を主眼とした商品投入から転換し、商品そのものが持つ価値向上を重視した商品づくりを基本方針としております。

具体的には、商品の企画段階において想定販売価格を明確に意識した企画運営を行うとともに、オリジナルブランドを中心とした自社企画商品の比率引き上げに取り組んでおります。またSKU数や型数については、単なる削減を目的とするものではなく、顧客にとって分かりやすく、選びやすい商品構成にすることを基本的な考え方として見直しを進め、商品管理の効率化を図っております。

これらの取り組みを通じて、当社は数値指標の改善そのものを目的とするのではなく、価値ある商品を継続的に市場へ提供できる商品ポートフォリオの構築を目指しております。

##### ② 営業戦略

営業戦略においては、売上高の拡大を最優先とする従来の営業活動を見直し、商品価値を正しく伝え、評価いただく営業スタイルへの転換を進めております。

具体的には、価格政策の見直しによる不採算取引の是正に取り組むとともに、商品特性やターゲットを踏まえた提案型営業の強化を図っております。また、商品価値やコンセプトを共有できる取引先との協業を重視し、長期的な視点での取引関係の構築に取り組んでおります。

これらの取り組みは、短期的な売上拡大を目的とするものではなく、商品価値を軸とした持続可能な営業モデルの構築を目指すものであります。

③ 重要事象等

当社は、2023年12月期まで、7期連続の営業損失及び6期連続の当期純損失を計上しておりました。前事業年度は営業利益及び当期純利益を計上いたしましたが、当事業年度において、120百万円の営業損失を計上しており、重要事象等が存在しております。当該営業損失の主な要因は来期に取り扱いを中止することを決定した商品の評価損を計上したことによるものであり、一時的なものであると考えております。

今後につきましては、「創造・開拓・奉仕」の経営理念のもと、商品価値の向上を軸とした事業構造への転換及び収益性の改善に向けた取り組みを継続し、事業の継続性及び財務基盤の安定を確保してまいります。

株主各位におかれましては今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

## (5) 財産及び損益の状況の推移

| 区 分                          | 第65期<br>(2022年12月期) | 第66期<br>(2023年12月期) | 第67期<br>(2024年12月期) | 第68期(当期)<br>(2025年12月期) |
|------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------------------|
| 売上高(千円)                      | 6,449,405           | 5,168,792           | 5,105,669           | 4,547,599               |
| 経常利益又は経常損失(△)(千円)            | △ 19,517            | △ 178,291           | 132,352             | △ 99,484                |
| 当期純利益又は当期純損失(△)(千円)          | △ 6,143             | △ 135,661           | 124,349             | 17,478                  |
| 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)(円) | △ 1.21              | △ 26.65             | 24.44               | 3.44                    |
| 総資産(千円)                      | 6,198,796           | 5,956,952           | 6,105,993           | 6,705,070               |
| 純資産(千円)                      | 4,501,562           | 4,443,821           | 4,669,512           | 4,521,695               |
| 1株当たり純資産(円)                  | 884.27              | 873.21              | 917.71              | 888.66                  |

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)は期中平均株式数、1株当たり純資産は期末発行済株式総数に基づき算出しております。
2. 当社は2024年12月21日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。第65期(2022年12月期)の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して、1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)及び1株当たり純資産を算定しております。
3. 第68期より不動産事業に係る収益及び費用等の処理方法に関する会計方針の変更を行っており、第67期以前については遡及処理後の数値を記載しております。

## (6) 重要な親会社及び子会社の状況

- ① 親会社との関係  
該当事項はありません。
- ② 重要な子会社の状況  
該当事項はありません。

## (7) 主要な事業内容

当社は、シューズ事業において靴の企画及び卸売・小売を、不動産事業において物件の売買、保有不動産の賃貸を主な事業内容としております。

## (8) 主要な事業所

本 社 (東京都文京区) 本蓮川口営業所 (埼玉県川口市)

## (9) 従業員の状況

| 区 分   | 従業員数 | 前期末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|-------|------|--------|-------|--------|
| 男 性   | 52名  | △3名    | 47.9才 | 24.3年  |
| 女 性   | 22   | 0      | 39.2  | 15.2   |
| 計又は平均 | 74   | △3     | 45.3  | 21.6   |

(注) 臨時社員の当期中の平均人員は10名（ただし、1日平均7.5時間換算による）で、これは上記従業員数には含んでおりません。

## (10) 主要な借入先

| 借 入 先                   | 借 入 額     |
|-------------------------|-----------|
| 株 式 会 社 商 工 組 合 中 央 金 庫 | 900,000千円 |

## (11) 剰余金の配当等の決定の方針

当社の配当政策の基本方針は、株主への長期的な利益還元を重要と考え、安定かつ充実した配当を行うことを基本とし、配当性向の向上に努める一方、企業体質強化のため、内部留保を充実させることにあります。

この基本方針に基づき、当期の配当につきましては、1株当たり11.4円（うち中間配当5.7円）とする予定であります。

内部留保金につきましては、販売体制を強化するため、営業設備の整備、充実に有効に使用していく所存であります。

なお、当社の剰余金の配当につきましては、会社法第454条第5項に規定する取締役会決議による中間配当及び会社法第454条第1項に規定する株主総会決議による期末配当の年2回配当を行うことができる旨を定款に定めております。

## II 会社の株式に関する事項

(1) 発行可能株式総数 18,000,000株

### (2) 発行済株式の総数

普通株式 5,088,200株（自己株式32,500株を除く）

(3) 株 主 数 1,455名

### (4) 大株主の状況

| 株 主 名                            | 持 株 数   | 持 株 比 率 |
|----------------------------------|---------|---------|
| 株 式 会 社 フ ロ ン テ ィ ア グ ル ー プ      | 9,440百株 | 18.55%  |
| 笠 井 庄 治                          | 6,858   | 13.48   |
| 金 子 将 幸                          | 5,900   | 11.59   |
| レ マ ッ ク 共 栄 会                    | 1,750   | 3.43    |
| 吉 原 頼 道                          | 1,426   | 2.80    |
| PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP. | 950     | 1.86    |
| 株 式 会 社 ヌ ル                      | 870     | 1.70    |
| 株 式 会 社 商 工 組 合 中 央 金 庫          | 850     | 1.67    |
| 笠 井 正 紀                          | 840     | 1.65    |
| 清 水 英 助                          | 685     | 1.34    |

- (注) 1 持株比率は自己株式（32,500株）を控除して算出しております。  
2 2024年12月21日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。

### (5) その他株式に関する重要な事項

該当事項はありません。

### Ⅲ 会社役員に関する事項

#### (1) 取締役及び監査役の氏名等

| 地 位       | 氏 名       | 担当及び重要な兼職の状況                                                                                                |
|-----------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 代表取締役社長   | 笠 井 信 剛   | 経営企画室長                                                                                                      |
| 取 締 役 会 長 | 笠 井 庄 治   | 有限会社パックス・ケイ代表取締役                                                                                            |
| 取 締 役     | 矢 野 浩 司   | 株式会社S K Y代表取締役社長                                                                                            |
| 取 締 役     | 北 山 恵 理 子 | 株式会社グロープリック代表取締役社長<br>Control Bionics Limited (オーストラリア法人) 日本<br>支社代表<br>経営戦略室長                              |
| 取 締 役     | 櫻 井 三 樹 子 | 櫻井三樹子社会保険労務士事務所代表<br>社会保険労務士会多摩統括支部役員                                                                       |
| 取 締 役     | 金 子 嘉 徳   | 株式会社フロンティアグループ代表取締役                                                                                         |
| 取 締 役     | 山 形 秀 樹   | 株式会社フロンティアグループクラウドファンディング<br>事業部長兼不動産部長                                                                     |
| 取 締 役     | 金 子 将 幸   | 株式会社オークラ商会代表取締役<br>株式会社フェリシテ代表取締役<br>株式会社ヌル代表取締役<br>株式会社コッチ代表取締役<br>北原株式会社代表取締役社長<br>株式会社ミュージーション代表取締役      |
| 常 勤 監 査 役 | 伊 藤 賢     |                                                                                                             |
| 監 査 役     | 町 田 弘 香   | ひすい総合法律事務所弁護士<br>T A C株式会社社外取締役 (監査等委員)                                                                     |
| 監 査 役     | 玉 井 哲 史   | 玉井哲史公認会計士事務所所長<br>株式会社アクリア顧問<br>株式会社ピーシーデポコーポレーション社外監査役<br>稲畑産業株式会社社外取締役 (監査等委員)<br>東亜建設工業株式会社社外取締役 (監査等委員) |

(注) 1. 当期中の役員の異動

就任

金子将幸氏は、2025年3月14日開催の第67回定時株主総会において新たに取締役役に選任され、就任いたしました。

退任

高野裕一氏は、2025年3月14日開催の第67回定時株主総会終結のときをもって任期満了により退任いたしました。

2. 取締役櫻井三樹子氏、金子嘉徳氏、山形秀樹氏及び金子将幸氏は、社外取締役であります。なお、各氏は株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
3. 監査役町田弘香氏及び玉井哲史氏は、社外監査役であります。なお、両氏は株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
4. 取締役矢野浩司氏は、複数の上場会社の重要役職を歴任しており、経営企画・財務・不動産に関する相当程度の知見を有しております。
5. 取締役北山恵理子氏は、複数の上場会社の重要役職を兼務されており、経営企画・海外戦略に関する相当程度の知見を有しております。
6. 取締役櫻井三樹子氏は、社会保険労務士の資格を有しており、人事・労務に関する相当程度の知見を有しております。
7. 取締役金子嘉徳氏は、会社経営者として不動産事業に深く精通しており、不動産全般、経営企画に関する相当程度の知見を有しております。
8. 取締役山形秀樹氏は、不動産事業に深く精通しており、不動産全般に関する相当程度の知見を有しております。
9. 取締役金子将幸氏は、靴業界に深く精通しており、シューズ事業全般、経営企画に関する相当程度の知見を有しております。
10. 監査役町田弘香氏は、弁護士の資格を有しており、法務に関する相当程度の知見を有しております。
11. 監査役玉井哲史氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

## (2) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、その被保険者は当社取締役、当社監査役及び当社執行役員であり、全ての被保険者について、その保険料を全額当社が負担しております。

当該保険契約では、被保険者が会社の役員の地位に基づき行った行為（不作為を含む）に起因して、善管注意義務違反・忠実義務違反等を理由に損害賠償請求された場合に、被保険者が被る損害についての損害賠償金や訴訟費用等が補填されることとなっております。ただし、当該保険契約に免責額についての定めを設けており、一定額に至らない損害につきましては補填の対象としないこととしております。また、贈収賄等の犯罪行為や意図的に違法行為を行った役員自身の損害等については補償対象外とすることにより、役員等の職務の適正性が損なわれないように措置を講じております。

## (3) 取締役及び監査役の報酬等の額

### ① 取締役の個人別の報酬等の内容の決定に関する方針

当社は、2025年3月14日に取締役会を開催し、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を決議しております。

取締役会は、当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等については、報酬等の内容の決定方法及び決定された報酬等の内容が当該決定方針と整合していることを確認しており、当該決定方針に沿うものであると判断しております。

取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針の内容の概要は次のとおりであります。

#### a. 基本方針

当社の役員の報酬は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして機能する報酬体系とし、個々の報酬の決定に際しては、各職責に応じた適正な水準とすることを基本方針としております。

取締役の報酬等につきましては、固定報酬としての基本報酬、役員賞与、退職慰労金により構成された報酬体系とし、株主総会において決議された報酬限度額の範囲内において、当社の事業規模、内容、業績、個々の職務内容や職責等を総合的に勘案し、定時株主総会後に開催される独立社外取締役が過半数を占める取締役会にて決定するものとしております。なお社外取締役の報酬につきましては、基本報酬及び退職慰労金のみとなっております。

b. 役員の報酬に係る方針（報酬等を与える時期又は条件の決定に関する方針を含む）

イ. 基本報酬（金銭報酬）の個人別の報酬等の額の決定に関する方針

取締役及び監査役の基本報酬につきましては、月例の固定報酬とし、役位、職務、在任期間等に応じて、当社の業績や経営環境、従業員給与の水準等を勘案しながら、総合的に判断し、決定いたしております。

ロ. 役員賞与額の算定方法の決定に関する方針

役員賞与につきましては、各事業年度の業績目標に対する達成意欲を持続させるための業績指標を反映させた金銭報酬とし、営業利益及び当期純利益をその重要な業績指標といたしますが、事業計画の達成度や過去の利益水準との比較、及び当社を取り巻く経営環境等を勘案した上で、取締役会において支給の有無・支給額を決議し、株主総会の承認を得て、毎年一定の時期に支給しております。

ハ. 退職慰労金額の算定方法の決定に関する方針

退職慰労金につきましては、取締役及び監査役の退任時において、在任中の功労があった取締役及び監査役に対し、株主総会での承認を得て、一定の時期に退職慰労金を支給しております。その額につきましては、当社規程に基づき、基本報酬及び在任年数等により算出しております。

ニ. 報酬等の種類ごとの割合の決定に関する方針

取締役の種類別の報酬の割合につきましては、基本報酬（固定報酬）及び退職慰労金を基本としており、役員賞与につきましては、当社の業績や経営環境を勘案した上で、取締役会において決議し、決定しております。

② 監査役の個人別の報酬等の内容の決定に関する方針

当社は、2025年3月14日開催の監査役会において、監査役の個人別の報酬等の内容に係る決定本心を協議の上、決定しております。監査役の報酬等につきましては、高い独立性の確保の観点から、業績との連動は行わず、固定報酬としての基本報酬及び退職慰労金により構成された報酬体系とし、株主総会において決議された報酬限度額の範囲内において、監査役会にて個々の監査役の役割に応じた報酬を協議の上、決定しており、公正かつ公平に決定されるよう努めております。

③ 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等の総額等

| 区分                | 支給人数 | 報酬等の種類別の額 |         |        | 計        | 摘要 |
|-------------------|------|-----------|---------|--------|----------|----|
|                   |      | 基本報酬      | 業績連動報酬等 | 非金銭報酬等 |          |    |
| 取締役<br>(社外取締役を除く) | 5名   | 26,149千円  | -       | -      | 26,149千円 |    |
| 社外取締役             | 4名   | 15,026千円  | -       | -      | 15,026千円 |    |
| 監査役<br>(社外監査役を除く) | 1名   | 7,523千円   | -       | -      | 7,523千円  |    |
| 社外監査役             | 2名   | 3,780千円   | -       | -      | 3,780千円  |    |
| 計                 | 12名  | 52,478千円  | -       | -      | 52,478千円 |    |

- (注) 1. 上記、金額には当事業年度に計上した役員退職慰労引当金繰入額4,558千円（取締役は3,139千円、社外取締役は676千円、監査役は563千円、社外監査役は180千円）が含まれております。また、退任した取締役1名の在任中の報酬等の額が含まれております。
2. 上記のほか、使用人兼務取締役の使用人給与相当額3,300千円（取締役2名）を支払っております。

④ 取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役の金銭報酬の額は、1993年3月18日開催の第35回定時株主総会において月総額13百万円以内と決議されております（使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない）。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は9名（うち社外取締役は0名）であります。

監査役の金銭報酬の額は、1993年3月18日開催の第35回定時株主総会において月総額2百万円以内と決議されております。当該定時株主総会終結時点の監査役の員数は2名であります。

#### (4) 社外役員に関する事項

##### ① 重要な兼職先と当社との関係

| 地 位   | 氏 名     | 兼職先法人等名            | 兼職の内容                 | 関 係         |
|-------|---------|--------------------|-----------------------|-------------|
| 社外取締役 | 櫻 井 三樹子 | 櫻井三樹子社会保険労務士事務所    | 代 表                   | 該当事項はありません。 |
|       |         | 社会保険労務士会多摩統括支部     | 役 員                   | 該当事項はありません。 |
| 社外取締役 | 金 子 嘉 徳 | 株式会社フロンティアグループ     | 代 表 取 締 役             | 該当事項はありません。 |
| 社外取締役 | 山 形 秀 樹 | 株式会社フロンティアグループ     | クラウドファンディング事業部長兼不動産部長 | 該当事項はありません。 |
| 社外取締役 | 金 子 将 幸 | 株式会社オークラ商会         | 代 表 取 締 役             | 該当事項はありません。 |
|       |         | 株式会社フェリシテ          | 代 表 取 締 役             | 該当事項はありません。 |
|       |         | 株式会社ヌル             | 代 表 取 締 役             | 該当事項はありません。 |
|       |         | 株式会社コッチ            | 代 表 取 締 役             | 該当事項はありません。 |
|       |         | 北原株式会社             | 代表取締役社長               | 該当事項はありません。 |
|       |         | 株式会社ミュージーション       | 代 表 取 締 役             | 該当事項はありません。 |
| 社外監査役 | 町 田 弘 香 | ひすい総合法律事務所         | 弁 護 士                 | 該当事項はありません。 |
|       |         | T A C 株 式 会 社      | 社外取締役(監査等委員)          | 該当事項はありません。 |
| 社外監査役 | 玉 井 哲 史 | 玉井哲史公認会計士事務所       | 所 長                   | 該当事項はありません。 |
|       |         | 株式会社アクリア           | 顧 問                   | 該当事項はありません。 |
|       |         | 株式会社ピーシーデポコーポレーション | 社 外 監 査 役             | 該当事項はありません。 |
|       |         | 稲畑産業株式会社           | 社外取締役(監査等委員)          | 該当事項はありません。 |
|       |         | 東亜建設工業株式会社         | 社外取締役(監査等委員)          | 該当事項はありません。 |

(注) 1. 株式会社フロンティアグループは、当社の株式18.55%を保有する大株主であります。

2. 株式会社ヌルは、当社の株式1.70%を保有する大株主であります。

##### ② 当期における主な活動状況

| 地 位   | 氏 名     | 主 な 活 動 状 況                                                                                                                                                                                                              |
|-------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社外取締役 | 櫻 井 三樹子 | 当期開催された取締役会18回のうち18回に出席いたしました。社会保険労務士としての幅広い見識に基づき主に人事・労務の専門的な見地から業務執行の監督等に十分な役割を果たし、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。上記以外にも、ジョブ型雇用の導入・促進や賃金制度の見直し、新型コロナウイルス感染症に係る休業・助成金等に関する助言・提言をいただき、労務環境の整備に積極的に寄与していただいております。 |

| 地 位   | 氏 名     | 主 な 活 動 状 況                                                                                                                                                                 |
|-------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社外取締役 | 金 子 嘉 徳 | 当期開催された取締役会18回のうち16回に出席いたしました。不動産事業のスペシャリスト並びに企業経営者としての幅広い見識に基づき経営全体のアドバイザー的な見地から業務執行の監督等に十分な役割を果たし、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。                                 |
| 社外取締役 | 山 形 秀 樹 | 当期開催された取締役会18回のうち16回に出席いたしました。不動産事業のスペシャリストとしての幅広い見識に基づき不動産全般についてのアドバイザー的な見地から業務執行の監督等に十分な役割を果たし、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。                                    |
| 社外取締役 | 金 子 将 幸 | 社外取締役就任後に開催された取締役会14回のうち13回に出席いたしました。靴業界に精通し、且つ企業経営者としての幅広い見識に基づきシューズ事業全般についてのアドバイザー的な見地から業務執行の監督等に十分な役割を果たし、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。                        |
| 社外監査役 | 町 田 弘 香 | 当期開催された取締役会18回のうち18回に、監査役会13回のうち13回に、それぞれ出席いたしました。弁護士としての見識に基づき主に法的な見地から取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。また監査役会においては、監査の方法、監査結果についての意見交換及び重要事項の協議等を行っております。           |
| 社外監査役 | 玉 井 哲 史 | 当期開催された取締役会18回のうち18回に、監査役会13回のうち13回に、それぞれ出席いたしました。公認会計士としての見識に基づき主に財務及び会計の専門的な見地から取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。また監査役会においては、監査の方法、監査結果についての意見交換及び重要事項の協議等を行っております。 |

#### IV 会計監査人の状況

##### (1) 当社の会計監査人の名称

東邦監査法人

##### (2) 当社の当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

- |                            |          |
|----------------------------|----------|
| ① 報酬等の額                    | 18,250千円 |
| ② 当社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 18,250千円 |

(注)当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当該事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

##### (3) 会計監査人の報酬等に監査役会が同意した理由

当社監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、監査計画における監査時間及び監査報酬の推移並びに過年度の監査計画と実績の状況を確認し、報酬額の見積りの妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

##### (4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任に関する議案を決定し、取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提出いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき監査役会が、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

## V 会社の体制及び方針

### (1) 業務の適正を確保するための体制

当社は、会社法及び会社法施行規則に定める「業務の適正を確保するための体制」について、取締役会において決議しております。その概要は以下のとおりであります。

- ① 取締役、使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制（会社法第362条第4項第6号、会社法施行規則第100条第1項第4条）
  - a. 取締役は、毎月開催の取締役会、情報共有の推進を通じて、他の取締役の職務執行の監督を行う。
  - b. 当社は、監査役会設置会社であり、各監査役は監査役会が定めた監査方針のもと、独立した立場から、内部システムの整備、運用状況を含め、取締役の職務執行の監査を行う。
  - c. 代表取締役社長は、管理本部担当取締役をコンプライアンス全体に関する総括責任者として任命し、コンプライアンス体制の構築、維持及び整備を行う。
  - d. 内部監査室は、業務執行部門から独立し、当社における業務の適正性及び効率性につき監視を行う。
  - e. 内部監査部門として、代表取締役社長直轄の内部監査室を補強し、社内各部署の業務について各種法令・各種規程等の遵守状況を計画的に監査する。
  - f. 当社は、法令違反行為に対して、従業員から社外（弁護士事務所）に匿名でも相談・申告できる「内部通報制度」を設け、申告者が不利益な扱いを受けない体制を整備する。
- ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制（会社法施行規則第100条第1項第1号）
  - a. 株主総会、取締役会の議事録、経営及び業務執行に係る重要な情報については、法令及び「文書取扱規程」「稟議規程」等の関連規程に従い、適切に記録し、定められた期間保存する。
  - b. 「文書取扱規程」「稟議規程」他関連規程は、必要に応じて適時見直し改善を図る。
- ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制（会社法施行規則第100条第1項第2号）
  - a. 取締役会及びその他の重要な会議において、各取締役、経営幹部及び使用人は、業務執行に係る重要な情報の報告を行う。
  - b. 代表取締役社長は、経営企画担当取締役をリスク管理の総括責任者として任命し、各担当取締役と連携しながら、リスクを最小限に抑える体制を整備する。
  - c. 災害等の不測の事態が発生した場合には、管理本部長が統轄する対策本部を設置し、迅速かつ適切な対応策を講じる。

- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制（会社法施行規則第100条第1項第3号）
- a. 取締役会は、当社の規模等を鑑み機動性を重視した体制とし、毎月開催の取締役会において重要事項の決定及び職務執行の監督を行う。
  - b. 経営会議を毎月開催し、チーム別予算の執行状況及び差異分析の結果に基づく、迅速かつ的確な意思決定を行う。
  - c. 執行役員制度の導入により業務執行機能を強化し、取締役及び執行役員による役員会議を開催し、取締役会付議議案の検討や情報の共有化など意思疎通に重点を置く。
  - d. 取締役会の決定に基づく業務執行については、組織体制、権限、業務分掌を社内規程等において明確にし、効率的な執行体制を整備する。
- ⑤ 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制（会社法施行規則第100条第1項第5号）
- a. 当社及び子会社における情報の共有化、指示の伝達等が効率的に行われる体制を構築するとともに、適切な管理を行う。
  - b. 内部統制部門（内部監査室及び経理部）は、海外を含めた子会社の監査を実施し、監査結果を取締役会及び監査役会に報告する。また、子会社のリスク管理状況やコンプライアンス活動状況の評価を行い、必要に応じて助言、改善提案等を行う。
  - c. 当社は、子会社に対し必要のつど会計監査及び業務監査を行うものとし、管理本部長がこれを指揮する。
- ⑥ 監査役が職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項（会社法施行規則第100条第3項第1号、会社法施行規則第100条第3項第2号及び第3号）
- a. 当社は、監査役を補助する使用人は配置していないが、取締役会は監査役会と必要に応じて協議を行い、当該使用人を任命及び配置することができる。
  - b. 監査役が指定する補助すべき期間中は、取締役の指揮命令は受けない。
- ⑦ 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制（会社法施行規則第100条第3項第4号）
- a. 監査役が、取締役会のほか重要な会議へ出席するとともに関係書類の閲覧を行える体制を整備する。
  - b. 当社及び子会社の取締役及び使用人は、当社に著しい損害を及ぼす恐れのある事項及び不正行為や重要な法令並びに定款違反行為を認知した場合の他、取締役会に付議する重要な事項と重要な決定事項、その他重要な会議の決定事項、重要な会計方針・会計基準及びその変更、内部監査の実施状況、その他必要な重要事項を、監査役に報告する。

- ⑧ 監査役の職務執行に生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項（会社法施行規則第100条第3項第6号）

監査役からその職務の執行について生ずる費用の前払い又は償還等の請求を受けたときは、速やかに当該請求に応じる。

- ⑨ 監査役への報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な扱いを受けないことを確保するための体制（会社法施行規則第100条第3項第5号）

内部通報制度運用規程により役員及び社員等は、本規定に基づく違反行為等の通報が行われたことを理由として、通報者に対し、降格、減給、その他不利益な扱いを受けない。

- ⑩ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制（会社法施行規則第100条第3項第7号）

- a. 代表取締役は、定期的に監査役と情報交換を行う。
- b. 監査役は、内部監査室及び会計監査人と緊密な連携を保ちながら、監査役監査の実効性確保を図る。
- c. 取締役並びに使用人は、法定の事項に加え、内部監査の実施状況を監査役に報告しなければならない。また、内部通報制度による通報状況及び内容、社内不祥事、法令違反事案のうち重要なものは監査役に報告しなければならない。

- ⑪ 財務報告の信頼性と適正性を確保するための体制（金融商品取引法第24条の4の4及び第193条の2第2項）

当社及び関係会社は金融商品取引法の定めに従い、良好な統制環境を保持しつつ、全社的な内部統制及び各業務プロセスの統制活動を強化し、適正かつ有効な評価ができるよう内部統制システムを構築し、かつ適正な運用を行うものとする。

また、財務報告に係る内部統制において、各組織（者）は以下の役割を確認する。

- a. 取締役は、組織の全ての活動において最終的な責任を有しており、本基本方針に基づき内部統制を整備・運用する。
- b. 取締役会は、取締役の内部統制の整備及び運用に対して監督責任を有しており、財務報告とその内部統制が確実に実行されているか取締役を監視、監督する。
- c. 内部監査室は内部統制の目的をより効果的に達成するために、内部監査活動を通じ、内部統制の整備及び運用状況を検討・評価し、必要に応じてその改善策を取締役並びに取締役会に提言する。

⑫ 反社会的勢力に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は、「コンプライアンス規程」において「反社会的勢力との関係断絶」を定めており、反社会的勢力とは毅然として対応し、一切関係を持たない旨を行動基準として定めている。

上記規程に基づき、管理本部を統括部署として対応している。また警察、弁護士などの外部専門機関との連携を密にし、有事において適切な相談、支援が受けられる体制を整備するとともに、警視庁管内特殊暴力防止対策連合会に加盟し、定期的に行われる情報交換会並びに研修会に参加し、関連情報の収集及び社内への周知徹底を図っている。

**(2) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要**

内部統制システム整備及び運用状況のモニタリングを実施し、取締役会において新たなリスクを検討し、諸規程及び業務の見直しを行い、適切な内部統制システムの向上に努めております。

コンプライアンスについては、定例会議及び研修を通じて実効性の向上に努めております。さらに内部通報制度により、外部顧問弁護士が内容を把握し、適切に対処・処置できる体制をとっております。

**(3) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針**

当社では、会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については特に定めておりません。しかしながら、不適切な者が支配を獲得する可能性がある場合は、速やかに支配されることを防止するための体制を整える予定であります。

~~~~~  
(注) 本事業報告中の記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(2025年12月20日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	4,364,732	流動負債	1,394,932
現金及び預金	1,935,032	支払手形	34,885
受取手形	26,880	買掛金	53,510
電子記録債権	571,114	短期借入金	1,095,000
売掛金	602,778	1年内返済予定の長期借入金	6,430
商売用不動産	518,879	未払金	84,914
販売用不動産	519,326	未払費用	42,333
暗号資産	81,608	未払法人税等	34,672
その他の金融	109,478	未償還引当金	15,029
貸倒引当金	△366	その他	28,157
固定資産	2,340,337	固定負債	788,442
有形固定資産	1,782,608	長期借入金	428,569
建物	403,874	繰延税金負債	89,772
構築物	5,055	退職給付引当金	150,035
機械及び装置	56,536	役員退職慰労引当金	76,847
車両運搬具	0	長期預り保証金	43,217
工具、器具及び備品	5,215	負債合計	2,183,375
土地	1,301,925	(純資産の部)	
建設仮勘定	10,000	株主資本	4,407,039
無形固定資産	44,180	資本	961,720
借地権	4,539	資本剰余金	838,440
ソフトウェア	35,729	資本準備金	838,440
電話加入権	3,911	利益剰余金	2,623,449
投資その他の資産	513,549	利益準備金	125,930
投資有価証券	490,029	その他利益剰余金	2,497,519
出資	440	固定資産圧縮積立金	155,665
破産更生債権等	1,208	別途積立金	1,440,000
差入保証金	2,519	繰越利益剰余金	901,853
その他の金融	20,561	自己株式	△16,570
貸倒引当金	△1,208	評価・換算差額等	114,656
資産合計	6,705,070	その他有価証券評価差額金	114,028
		繰延ヘッジ損益	628
		純資産合計	4,521,695
		負債・純資産合計	6,705,070

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(2024年12月21日から
2025年12月20日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上	4,547,599
売上原価	3,234,208
売上総利益	1,313,391
販売費及び一般管理費	1,434,025
営業利益	120,634
受取利息	355
受取当金	18,101
受取料	6,253
受取金	9,604
受取益	8,887
受取他	5,011
営業外費用	48,214
支為	7,413
暗号	74
経常の	18,579
特別	997
特別利益	27,063
特固投資	157,359
特固別	86,577
特固	243,937
特固	123
特固	93,401
特固	93,524
税金引前当期純利益	50,927
法人税、住民税及び事業税	31,403
法人税、住民税及び事業税	2,045
当期純利益	33,449
当期純利益	17,478

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(2024年12月21日から
2025年12月20日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本							自己株式	株主資本計 合
	資 本 金	資本剰余金	利 益 剰 余 金				資本準備金		
		利益準備金	そ の 他 利 益 剰 余 金			繰越利益 剰余金			
			固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金				
当 期 首 残 高	961,720	838,440	125,930	157,711	1,440,000	940,334	△16,570	4,447,565	
事業年度中の変動額									
固定資産圧縮積立金の取崩				△2,045		2,045		-	
剰余金の配当						△58,005		△58,005	
当期純利益						17,478		17,478	
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)									
事業年度中の変動額合計	-	-	-	△2,045	-	△38,481	-	△40,526	
当 期 末 残 高	961,720	838,440	125,930	155,665	1,440,000	901,853	△16,570	4,407,039	

	評 価 ・ 換 算 差 額 等			純資産合計
	その他有価証 券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	
当 期 首 残 高	212,098	9,847	221,946	4,669,512
事業年度中の変動額				
固定資産圧縮積立金の取崩				-
剰余金の配当				△58,005
当期純利益				17,478
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額(純額)	△98,070	△9,219	△107,289	△107,289
事業年度中の変動額合計	△98,070	△9,219	△107,289	△147,816
当 期 末 残 高	114,028	628	114,656	4,521,695

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

〔重要な会計方針に係る事項に関する注記〕

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産

商品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

販売用不動産

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(3) デリバティブ

原則として時価法

(4) 暗号資産

活発な市場があるもの

事業年度末日の市場価格等に基づく時価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

主な資産の耐用年数

建物 8年～50年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、自社利用ソフトウェアは、社内における利用可能期間（5年間）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とした定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付の支給に備えるため、当事業年度末における自己都合要支給額の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。また、執行役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

(1) シューズ事業

シューズ事業は、主としてシューズの販売を行っており、顧客との販売契約に基づいて商品を引き渡す履行義務を負っております。当該履行義務は、主に商品を引き渡した時点において支配が顧客に移転して履行義務が充足されると判断しておりますが、商品の国内の販売において、出荷時から当該商品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

なお、顧客への商品の提供における当社の役割が代理人に該当すると判断した取引については、顧客から受け取る対価の総額から仕入先に対する支払額を控除した純額で収益を算定しております。また、収益は顧客との契約において約束された対価から、返品、値引き等を控除した金額で算定しております。

(2) 不動産事業

不動産事業は、不動産販売業及び不動産賃貸業より構成されます。

不動産販売業は、主にマンション販売事業及び販売用として保有する収益不動産の販売事業であり、顧客との不動産売買契約に基づき当該物件の引渡し義務を負っております。当該履行義務は物件が引き渡される一時点で充足されるものであり、当該引渡し時点で収益を認識しております。不動産賃貸業は主にマンションの賃貸を行っており、顧客との賃貸借契約に基づき、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号2007年3月30日）に基づき収益を認識しております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、為替予約が付されている外貨建金銭債務については、振当処理を行っております。

(2) ヘッジ手段

為替予約取引

(3) ヘッジ対象

外貨建金銭債務

(4) ヘッジ方針

社内規程に基づき、輸入取引により生ずる外貨建金銭債務保有に係る為替変動リスクをヘッジするため、実需の範囲内で為替予約取引を行っております。

(5) ヘッジの有効性の評価

為替予約については、ヘッジ手段とヘッジ対象又は予定取引に関する重要な条件が同一であり、ヘッジ開始時及びその後も継続して相場変動又はキャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定されるため、ヘッジの有効性の評価は省略しております。

6. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

〔会計方針の変更に関する注記〕

(不動産事業に係る収益及び費用等の処理方法)

当社は、これまでシューズ事業の本業外の事業（営業外）として仕入再販及び賃貸していた不動産について、従来、貸借対照表上、「投資不動産」として投資その他の資産に計上していましたが、当事業年度より販売目的の保有不動産を流動資産の「販売用不動産」、賃貸目的の保有不動産を有形固定資産の「建物」、「構築物」及び「土地」に計上する方法に変更しました。また、損益計算書上、「固定資産売却益」を特別利益、「受取賃貸料」を営業外収益、「賃貸費用」及び「その他」（諸経費）を営業外費用に計上していましたが、当事業年度より販売目的の保有不動産に係る販売金額及び「受取賃貸料」を売上高、販売目的の保有不動産に係る帳簿価額を含む売却関連費用及び「賃貸費用」を売上原価、「その他」（諸経費）を売上原価及び販売費及び一般管理費に計上する方法に変更しております。

この変更は、企業価値向上に努める方針のもと、新たに不動産事業を行う事業部を設置し、不動産賃貸業務に加え、宅地建物取引業の免許を取得し、不動産の仕入再販業務を開始したことにより、取引実態をより適切に反映するために行ったものであります。

当該会計方針の変更は遡及適用しておりますが、当事業年度の期首における純資産に対する累積的影響額はありません。

〔会計上の見積りに関する注記〕

棚卸資産の評価

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

商品 518,879千円

(2) 識別した項目に係わる重要な会計上の見積りの内容に関する情報

棚卸資産の評価につきまして、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しており、事業年度末における正味売却価額が取得原価を下回っている場合には、当該正味売却価額をもって貸借対照表価額としております。棚卸資産の評価において用いた主要な仮定は正味売却価額であり、当該正味売却価額は、直近に販売実績があるものは販売実績価額をベースとし、販売実績がないものは市況の変化等を鑑みた見込販売価格をベースとして算出しております。

また、長期滞留の棚卸資産については、過去の販売実績等を勘案した商品としての販売可能性を検討した上で、現時点において通常品としての販売が見込まれず収益性の低下が見込まれる在庫について処分見込み価額での評価を行っております。

なお、サンダル、ブーツ等季節性の高い商品につきましては、シーズン終了時点で、過去の販売実績等を勘案して翌シーズンの販売可能性を検討した上で、処分見込み価額での評価を行っております。

今後の顧客のニーズの変化や市場環境の悪化等により将来の正味売却価額が著しく下落した場合には、翌事業年度の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

当事業年度の棚卸資産評価損の金額は、107,048千円であります。

〔貸借対照表に関する注記〕

1. 担保に供している資産及び対応債務

担保に供している資産

販売用不動産	291,236千円
建物	212,374千円
土地	1,099,237千円
計	1,602,848千円

上記に対応する債務

支払手形（信用状）	34,885千円
短期借入金	695,000千円
1年内返済予定の長期借入金	6,430千円
長期借入金	428,569千円
計	1,164,885千円

根抵当権によって担保されている債務については、期末残高又は極度額のいずれか少ない方の金額で記載しております。

2. 有形固定資産の減価償却累計額 934,527千円

3. 期末日満期手形及び電子記録債権の会計処理については、手形交換日又は決済日をもって決済処理しております。なお、当事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形及び電子記録債権が期末残高に含まれております。

受取手形	128千円
電子記録債権	38,834千円

【株主資本等変動計算書に関する注記】

1. 当事業年度末における発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	512,070	4,608,630	-	5,120,700

(注) 1. 当社は2024年12月21日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。

2. 発行済株式総数の増加4,608,630株は、株式分割によるものであります。

2. 当事業年度末における自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	3,250	29,250	-	32,500

(注) 1. 当社は2024年12月21日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。

2. 自己株式の増加29,250株は、株式分割によるものであります。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年3月14日 定時株主総会	普通株式	29,002	57.00	2024年12月20日	2025年3月17日
2025年7月25日 取締役会	普通株式	29,002	5.70	2025年6月20日	2025年9月2日

(注) 当社は2024年12月21日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っております。2025年3月14日定時株主総会決議による1株当たり配当額につきましては、当該株式分割前の株式数を基準としております。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2026年3月16日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2026年3月16日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	29,002	5.70	2025年12月20日	2026年3月17日

〔税効果会計に関する注記〕

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

繰延税金資産	
賞与引当金	4,601
未払事業税	3,587
商品評価損	22,190
事業撤退損	28,599
退職給付引当金	47,263
役員退職慰労引当金	24,222
貸倒引当金	493
減損損失	32,072
投資有価証券評価損	33,836
税務上の繰越欠損金	185,377
その他	5,598
繰延税金資産小計	387,842
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	△185,377
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△202,465
評価性引当額小計	△387,842
繰延税金資産合計	-
繰延税金負債	
繰延ヘッジ損益	△301
固定資産圧縮積立金	△71,649
その他有価証券評価差額金	△17,821
繰延税金負債合計	△89,772
繰延税金負債の純額	△89,772

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	(単位：%)
法定実効税率 (調整)	30.6
住民税均等割	6.4
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.7
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△1.8
評価性引当額の増減	25.9
税率変更による影響	4.0
その他	△0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	65.7

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。これに伴い、2026年12月21日以後開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.62%から31.52%に変更し計算しております。

この変更により、当事業年度の繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)は2,554千円、法人税等調整額が2,045千円増加し、その他有価証券評価差額金が508千円減少しております。

〔金融商品に関する注記〕

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は、資金運用については預金等の安全性の高い金融商品で行い、資金調達については銀行借入により調達する方針であります。

受取手形、電子記録債権及び売掛金に係わる顧客の信用リスクは、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、回収遅延債権については、定期的に営業本部長へ報告され、個別に把握及び対応を行う体制としております。また、投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業等の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、また、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

営業債務である支払手形、買掛金及び未払金は、1年以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替予約取引を利用してヘッジしております。

短期借入金及び長期借入金は、主に営業取引に係る資金調達です。これらは全て変動金利によるもので、金利の変動リスクに晒されておりますが、金利変動のリスクを回避するため毎月金利の状況を把握し、継続的に資金調達状況の見直しをしております。

営業債務や借入金等は、流動性リスクに晒されておりますが、財務課が月次で資金繰り表を作成するなどの方法により管理をしております。

デリバティブ取引は、外貨建金銭債務に係る為替相場変動によるリスクの軽減を目的とした為替予約取引であります。デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従っております。また信用リスクを軽減するため、信用度の高い国内金融機関にて取引を行っております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載されている「ヘッジ会計の方法」をご覧ください。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2025年12月20日（当事業年度の決算日）における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、市場価格のない株式等は、「その他有価証券」には含めておりません。また、現金及び預金については、現金であること、及び預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。受取手形、電子記録債権、売掛金、支払手形、買掛金、短期借入金及び未払金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
投資有価証券			
その他有価証券	367,120	367,120	-
資産計	367,120	367,120	-
長期借入金（*1）	435,000	435,965	965
負債計	435,000	435,965	965
デリバティブ取引（*2）	929	929	-

（*1）1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含んでおります。

（*2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

（注）市場価格のない株式等

（単位：千円）

区分	貸借対照表計上額
非上場株式	17,213
投資事業有限責任組合出資金	105,695

投資事業有限責任組合出資金については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日）第24－16項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

3. 金融商品の時価レベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定された時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で貸借対照表に計上している金融商品

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券	367,120	-	-	367,120
資産計	367,120	-	-	367,120
デリバティブ取引	-	929	-	929

(2) 時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	-	435,965	-	435,965
負債計	-	435,965	-	435,965

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

① 投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

② 長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額を残存期間及びリスクフリーレートや信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

③ デリバティブ取引

為替予約取引の時価は、取引金融機関等から提示された価格等を用いて評価しており、その時価をレベル2の時価に分類しております。

〔収益認識に関する注記〕

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

	報告セグメント		合計
	シューズ事業	不動産事業	
婦人靴	2,356,715	-	2,356,715
紳士靴	1,156,750	-	1,156,750
ゴム・スニーカー・その他	939,359	-	939,359
顧客との契約から生じる収益	4,452,824	-	4,452,824
その他の収益	-	94,774	94,774
外部顧客への売上高	4,452,824	94,774	4,547,599

(2) 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

「重要な会計方針に係る事項に関する注記 4. 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

〔賃貸等不動産に関する注記〕

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、東京都その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸事務所や店舗及び賃貸用住宅等を有しております。

2. 賃貸等不動産の時価に関する事項

当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当事業年度増減額及び時価は次のとおりであります。

貸借対照表計上額 (千円)			当事業年度末の時価 (千円)
当事業年度期首残高	当事業年度増減額	当事業年度末残高	
730,923	615,320	1,346,243	1,819,390

(注) 1. 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 当事業年度末の時価は、主として社外の不動産鑑定士による調査価格又は固定資産税評価額等を合理的に調整した価額により算定した金額であります。また、新規取得した物件については、適正な帳簿価格をもって時価としております。

〔関連当事者との取引に関する注記〕

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有(被 所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の 関係会社	(株)フロンティアグループ	東京都千代田区	100,000	不動産業	被所有 直接18.5	役員の兼任 出向者の受 入	出向料の 支払	4,300	未払金	400

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有(被 所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員が代 表権を有 している 会社	(株)オークラ 商会	兵庫県 神戸市	25,000	靴事業	-	役員の兼任 商品の仕入 従業員の出 向	商品の仕 入(注)	3,363	-	-
							出向料の 受取	2,400	未収入 金	400

(注) 商品仕入の取引条件は、他の取引先と同様の条件によっております。

〔1株当たり情報に関する注記〕

- 1株当たり純資産額 888円66銭
- 1株当たり当期純利益 3円44銭

会計監査人の監査報告書

独立監査人の監査報告書

2026年2月6日

東邦レマック株式会社
取締役会 御中

東邦監査法人
東京都千代田区

指 定 社 員 公認会計士 小 池 利 秀
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 石 井 薦
業 務 執 行 社 員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、東邦レマック株式会社の2024年12月21日から2025年12月20日までの第68期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告書

監 査 報 告 書

2026年2月17日

東邦レマック株式会社

代表取締役社長 笠 井 信 剛 殿

東邦レマック株式会社 監査役会
監査役(常勤) 伊 藤 賢
監 査 役 町 田 弘 香
監 査 役 玉 井 哲 史

当監査役会は、2024年12月21日より2025年12月20日までの第68期事業年度における取締役の職務の執行に関して、各監査役が監査をまいりました。その結果を審議し、監査役全員の一致した意見として、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、会社法の該当条項に掲げる事項に関する取締役会決議の内容、並びに当該決議に基づき整備された体制の状況について監視及び検証し、かつ監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果についての報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査の方針、業務の分担等に従い、取締役会その他の重要な会議に出席し、取締役及び使用人からその職務の執行状況についての報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において事業及び財産の状況を調査しました。また、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法第362条第4項第6号及び会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制について、その取締役会の決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）の構築及び運用状況について監視及び検証いたしました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係わる事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

また会計監査人が独立の立場を保持し、かつ適正な監査を実施しているか、監査の品質管理に関する審査等が適正に機能しているかについては、会計監査人から会社計算規則第131条に基づき通知を受け、必要に応じて説明を求め、検証した結果、指摘すべき事項はない旨を確認し、当該事業年度に係わる計算書類（貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書）及びその附属明細書について会計監査人からその職務の執行状況についての報告を受け、必要に応じて説明を求め、これらに基づき検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の遂行に関する不正の行為、又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに係わる取締役会の決議の内容は、相当であると認めます。また当該内部統制システムに関する取締役の職務遂行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人東邦監査法人の監査方法及び結果は、相当であると認めます。

(注) 監査役町田弘香及び玉井哲史は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

以 上

以 上

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 剰余金の処分の件

当期の期末配当金につきましては、当期の業績及び今後の事業展開を勘案し、経営環境が依然として厳しい折から下記のとおりといたしたいと存じます。

期末配当に関する事項

(1) 配当財産の種類

金銭

(2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき 5.7円 総額 29,002,740円

(3) 剰余金の配当が効力を生じる日

2026年3月17日

第2号議案 取締役8名選任の件

本総会終結のときをもって、現任の取締役8名全員が任期満了となります。つきましては、取締役8名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
1	かき い のぶ たか 笠井 信剛 (1977年1月21日生)	2001年2月 当社入社 2017年3月 当社執行役員経営企画室副室長 2019年3月 当社取締役経営企画室長兼営業本部長 2025年3月 当社代表取締役社長兼経営企画室長(現任)	52,250株
2	や の こう じ 矢野 浩司 (1969年7月28日生)	1992年4月 高木証券(株)(現:東海東京証券(株))入社 1994年9月 日立信販(株)入社 2004年1月 三貴商事(株) 取締役財務部長就任 2013年11月 (株)コネクテクトテクノロジーズ(現:(株)アスリナ) 取締役兼最高財務責任者(CFO)就任 2016年1月 (株)S B Y 代表取締役社長就任 2020年3月 (株)カーチスホールディングス 経営企画部部長就任 2023年3月 一般社団法人ルブランサポート 理事就任 ダイシン物産(株)(現:(株)S K Y) 代表取締役社長就任(現任) 2024年3月 当社取締役不動産事業部長(現任)	6,000株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
3	きた やま ね り こ 北山恵理子 (1958年4月7日生)	1981年4月 ダンアンドブラッドストリートジャパン(株)入社 1990年4月 同社オペレーションディレクター就任 2000年12月 同社代表取締役社長就任 2010年12月 (株)グロープリング設立 代表取締役社長就任(現任) 2015年3月 東邦レマック(株) 社外取締役就任 2015年6月 (株)プロトコーポレーション 社外取締役就任 2016年1月 (株)ジー・スリーホールディングス 社外取締役就任 2017年3月 (株)S B Y 代表取締役社長就任 2018年2月 (株)日本チャンピオングループ 代表取締役社長就任 2021年8月 Control Bionics Limited (オーストラリア法人) 日本支社代表就任(現任) 2024年3月 当社社外取締役 2025年8月 当社取締役経営戦略室長(現任)	3,000株
4	な す とも あき 那須友明 (1971年1月19日生)	1991年3月 当社入社 2018年4月 当社経理部課長 2023年4月 当社執行役員経理部部長 2025年3月 当社執行役員管理本部長兼経理部部長 (現任)	3,000株
5	かね こ よし のり 金子嘉徳 (1974年11月3日生)	1999年8月 アルテック(株)入社 2000年2月 (株)デアゴスティーニ・ジャパン入社 2003年11月 (株)S F C G入社 2007年10月 同社 取締役関連事業部長就任 2008年8月 (株)フロンティアグループ設立 代表取締役(現任) 2024年3月 当社社外取締役(現任)	40,000株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
6	やま がた ひで き 山形 秀樹 (1972年6月26日生)	1996年4月 ㈱千葉銀行入社 1997年4月 ランドトラスト㈱入社 2001年5月 ジョーンズラングラサール㈱ シニアマネージャー就任 2007年9月 三菱地所投資顧問㈱ 次長就任 2022年11月 ㈱フロンティアグループ クラウドファンディング事業部長兼不動産部長就任(現任) 2024年3月 当社社外取締役(現任)	3,000株
7	かね こ まさ ゆき 金子 将幸 (1970年7月27日生)	1995年4月 ㈱グリーンシューズ(現:㈱グリーン)入社 1997年10月 同社 常務取締役就任 2004年10月 ㈱オークラ商会 専務取締役就任 2013年2月 同社 代表取締役就任(現任) 2015年7月 ㈱フェリシテ設立 代表取締役就任(現任) 2023年9月 ㈱ヌル 代表取締役就任(現任) 2024年7月 ㈱コッチ 代表取締役就任(現任) 2025年3月 当社社外取締役(現任) 2025年3月 北原㈱ 代表取締役社長就任(現任) 2025年11月 ㈱ミュージーション 代表取締役就任(現任)	590,000株
8	おの の きとし 小野 聡 (1964年10月22日生)	1989年4月 最高裁司法研修所入所 第43期司法修習生 1991年4月 第二東京弁護士会 弁護士登録 2006年4月 ライブラ法律会計事務所開設 所長就任(現任) 2019年9月 BRUNO株式会社 社外取締役就任(現任) 2024年4月 REXT Holdings株式会社 社外監査役就任(現任)	-株

(注) 1. 各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。

2. 金子嘉徳氏は、社外取締役候補者であります。当社の社外取締役就任期間は本総会終結のときをもって2年であります。また同氏につきましては、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。
金子嘉徳氏を社外取締役候補者とした理由は、幅広い分野において培った経験と企業経営者としての豊富な知識を有しており、代表取締役社長として㈱フロンティアグループの成長に大きく寄与した実績を有し、今後の当社が展開していく不動産事業を含めて、経営全体に対して有益な意見やアドバイスがいただけるものと判断し、選任しております。
また金子嘉徳氏は、2025年12月20日時点において個人所有で40,000株、同氏が代表を務める株式会社フロンティアグループとして944,000株を所有しており、その合算での議決権保有率は19.35%であります。
3. 山形秀樹氏は、社外取締役候補者であります。当社の社外取締役就任期間は本総会終結のときをもって2年であります。また同氏につきましては、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。
山形秀樹氏を社外取締役候補者とした理由は、当社が本格的に取り組む不動産事業に関して豊富な経験と高い知識を有しております。三菱地所投資顧問(株)在籍時に不動産投資信託や現物不動産に関する高度な知識と多岐にわたる実務経験を要する業務に10年以上従事してきており、不動産全般にわたる高い専門性を有している実績のある人材であります。当社が展開していく不動産事業に対して有益な意見やアドバイスができるものと判断し、選任しております。
4. 金子将幸氏は、社外取締役候補者であります。当社の社外取締役就任期間は本総会終結のときをもって1年であります。また同氏につきましては、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。
金子将幸氏を社外取締役候補者とした理由は、靴業界に精通しており、幅広い分野において培った経験と企業経営者としての豊富な知識を有しており、当社の主力であるシューズ事業を含めて、経営全体に対して有益な意見やアドバイスがいただけるものと判断し、選任しております。
また金子将幸氏は、2025年12月20日時点において個人所有で590,000株、同氏が代表を務める株式会社ヌルとして87,000株を所有しており、その合算での議決権保有率は13.31%であります。
5. 小野聡氏は、社外取締役候補者であります。また同氏につきましては、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出る予定にしております。
小野聡氏を社外取締役候補者とした理由は、弁護士として法令についての専門的な見識を有していること、また複数の上場会社の監査役や社外取締役に携わり、得た様々な知識や経験等を当社の経営全体に対して有益な意見やアドバイスがいただけるものと判断し、選任しております。
6. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、被保険者が会社の役員の地位に基づいて行った行為（不作為を含む）に起因して、善管注意義務違反・忠実義務違反等を理由に損害賠償請求された場合に、被保険者が被る損害についての損害賠償金や訴訟費用等が填補されることとなっております。当該役員等賠償責任保険の被保険者は当社取締役、当社監査役及び当社執行役員であり、全ての被保険者について、その保険料を全額当社が負担しております。また候補者は、当該保険契約の被保険者に含まれており、次回更新時には同内容での更新を予定しております。

第3号議案 監査役1名選任の件

本總會終結のときをもって、監査役玉井哲史氏が任期満了となります。つきましては、監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、地位及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
たかの やすのり 高野 寧 績 (1980年11月10日生)	2003年11月 中央青山監査法人 入所 2007年5月 リーマン・ブラザーズ証券株式会社 入社 2007年8月 公認会計士登録 2008年10月 野村証券株式会社 入社 2012年11月 ユニゾン・キャピタル株式会社 入社 2014年8月 養和監査法人 代表社員(現任) 2015年1月 高野寧績税理士事務所開設 2015年7月 日本ファンドサービス合同会社 代表社員(現任) 2016年1月 有限会社高野会計事務所 代表取締役(現任) 2021年9月 アクシスコンサルティング株式会社 監査等委員(現任) 2022年6月 フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 社外取締役監査等委員 2025年1月 株式会社ウイルコホールディングス 社外取締役 監査等委員(現任)	-株

(注) 1. 候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。

2. 高野寧績氏は社外監査役候補者であります。

同氏を社外監査役候補者とした理由は、公認会計士及び税理士として財務及び会計についての専門的な見識を有していること、監査法人に在籍し、業務に携わり経験・蓄積してきたことを当社の監査に反映していただくためであります。上記の理由により社外監査役として、職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。

3. 当社は候補者を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出る予定にしております。

4. 当社は、会社法第430条の3に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、被保険者が会社の役員の地位に基づき行った行為(不作為を含む)に起因して、善管注意義務違反・忠実義務違反等を理由に損害賠償請求された場合に、被保険者が被る損害についての損害賠償金や訴訟費用等が補填されることとなっております。候補者は、当該保険契約の被保険者に含められており、次回更新時には同内容での更新を予定しております。

第4号議案 補欠監査役1名選任の件

法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、あらかじめ補欠の監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、その選任の効力は就任前に限り、監査役会の同意を得て、取締役会の決議によりその選任を取り消すことができるものとさせていただきます。

また、本議案の提出につきましては、予め監査役会の同意を得ております。

補欠の監査役候補者は、次のとおりであります。

氏名 (生年月日)	略歴、地位及び重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
たて やま じゅん こ 立山純子 (1980年10月29日生)	2006年10月 弁護士登録・外国法共同事業法律事務所 リンクレーターズ 入所 2009年4月 外務省国際協力局気候変動課（任期付職員） 入省 2012年8月 第一中央法律事務所 入所 2024年6月 株式会社ブイ・テクノロジー 社外取締役監査等委員 （現任） 2024年6月 ムラキ株式会社 社外監査役（現任）	-株

- (注) 1. 候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 立山純子氏は、補欠の社外監査役候補者であります。なお、立山純子氏が社外監査役に就任した場合には、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出る予定であります。
3. 立山純子氏を補欠の社外監査役候補者とした理由は、弁護士として法令についての専門的な見識を有していること、複数の上場会社の監査役や社外取締役に携わり、得た様々な知識や経験等を当社の監査に反映していただくためであります。同氏は過去に会社の経営に関与したことはありませんが、上記の理由により社外監査役として職務を適切に遂行していただけるものと判断しております。
4. 当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、被保険者が会社の役員の地位に基づいて行った行為（不作為を含む）に起因して、善管注意義務違反・忠実義務違反等を理由に損害賠償請求された場合に、被保険者が被る損害についての損害賠償金や訴訟費用等が補填されることとなっております。当該役員等賠償責任保険の被保険者は、当社取締役、当社監査役及び執行役員であり、全ての被保険者について、その保険料を全額当社が負担しております。小野聡氏の補欠監査役選任が承認され、選任期間中に監査役に就任した場合は、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。

第5号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

本総会の終結をもって任期満了により取締役を退任される2名に対し、退職慰労金を贈呈いたしたいと存じます。

各取締役に対する退職慰労金は、当社の役員退職制度で定められている役員退職慰労金支給内規に基づく算定額を基礎として決定することを基本といたしますが、その具体的内容につきましては、以下のとおりであります。なお、その具体的金額、支給時期及び方法等につきましては、取締役会にご一任願いたく存じます。

- (1) 笠井庄治氏の退職慰労金贈呈を相当とする理由は、取締役として43年、うち代表取締役として28年にわたり当社の経営を担い、事業基盤の確立及び企業価値の持続的向上に特段の貢献をされた功績等を総合的に勘案してのものであります。その内容につきましては、役員退職慰労金支給内規に基づく算定額及び同内規に定める功労加算制度による加算額を基礎としつつ、同内規による算定額の範囲を超えた特別加算を含め70百万円を上限として贈呈することといたしたく存じます。

氏名	略歴
笠井庄治	1983年3月 当社取締役
	1986年3月 当社常務取締役
	1987年3月 当社専務取締役
	1997年3月 当社代表取締役
	2025年3月 当社取締役会長 現在に至る

- (2) 櫻井三樹子氏（社外取締役）の退職慰労金贈呈を相当とする理由は、在任中における職務執行及び当社経営への助言・監督機能の発揮等の功績を勘案してのものであります。その内容につきましては、役員退職慰労金支給内規に基づく算定額の範囲内で贈呈することといたしたく存じます。

氏名	略歴
櫻井三樹子	2021年3月 当社社外取締役 現在に至る

第6号議案 退任監査役に対し退職慰労金贈呈の件

本総会の終結をもって任期満了により監査役を退任される玉井哲史氏に対し、在任中の功勞に報いるため、役員退職慰労金支給内規に基づく算定額の範囲内で贈呈することといたしたく存じます。なお、その具体的金額、贈呈の時期、方法等については監査役の協議にご一任願いたいと存じます。

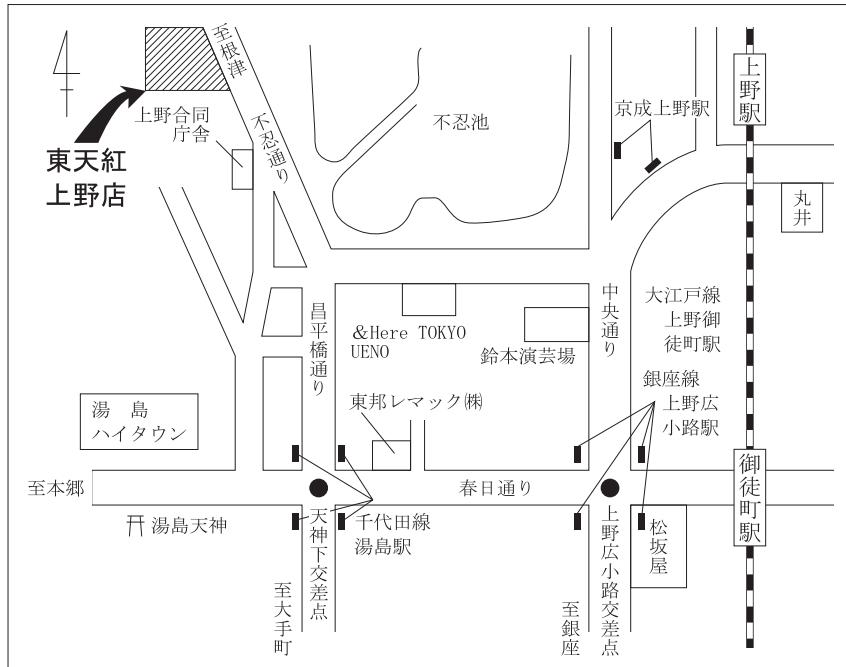
退任監査役の略歴は、次のとおりであります。

氏 名	略 歴
玉 井 哲 史	2018年3月 当社社外監査役 現在に至る

以上

第68回定時株主総会会場のご案内図

会 場 東京都台東区池之端1丁目4番1号
 東天紅 上野店 5階飛鳥の間
 電話 (03) 3828-5111 (代表)



最寄駅

JR線	上野駅	徒歩13分
	御徒町駅	徒歩10分
地下鉄千代田線	湯島駅	徒歩3分
地下鉄銀座線	上野広小路駅	徒歩10分
地下鉄大江戸線	上野御徒町駅	徒歩10分
京成線	京成上野駅	徒歩10分